

小学1・2年生むき

夏休みにおすすめの本

『ひとまねこざるときいろいぼうし』

H. A. レイ/作 岩波書店 E-レ

さるのジョージは、きいろいぼうしのおじさんにつれられて、ふねにのって、おおきなまちへ行くことになりました。しりたがりやで、ひとまねのだいすきなジョージは、いろいろなじけんをまきおこします。

『チムとゆうかなせんちょうさん』

エドワード・アーディゾーニ/作 福音館書店 E-ア

ふなのりになりたくてたまらないチムは、ある日、大きなふねにもぐりこみます。チムはせんちょうやほかのふなのりたちからかわいがられますが、とつぜんふねがあらしにおそわれひっくりかえります。しかし、チムはせんちょうといっしょにたすけられ、ぶじ家にたどりつきます。

『エルマーのぼうけん』

R. S. ガネット/作 福音館書店 GY-ガ

ある日エルマーは、としよりののらねこから、りゅうの子がどうぶつ島にとらわれていると聞いて、たすけに行くことにしました。エルマーは、リュックにチューインガムやぼうつきキャンデーなどをつめて、おそろしいもうじゅうがすむというどうぶつ島へしゅっぱつしました。

『ねこのオーランドー』

キャスリーン・ヘイル/作 福音館書店 E-へ

オーランドーはきれいなママレード色のねこ。おくさんと3びきの子ねこがいます。かぞくはご主人に休みをもらってキャンプに行きます。川の近くにテントをはって魚をとったり、山にのぼったり、キャンプファイアをかこんでうたったりします。ねこのかぞくの楽しい夏休みのお話です。

『恐竜にあいにいこう』（ちしきの本）

アリキ/作 リブリオ出版 45-ブ

はくぶつかんってどんなところ？ どんなきょうりゅうにあえるの？ お父さんと妹といっしょにはくぶつかんへ行って、けんりゅう・よろいりゅう・にくしょくきょうりゅう・そうしょくきょうりゅうなど、いろんなきょうりゅうにであいます。

『どうくつをたんけんする』（ちしきの本）

堀内誠一/作 福音館書店 45-ホ

ぼくはどうくつ研究所の先生から「夏休みに、どうくつをたんけんにきませんか？」というてがみをもらいました。しょうにゆうどうに入ったぼくは、中のふしぎな世界にすっかりかんしんします。先生にどうくつのことをたくさんおしえてもらいます。

『金のがちょうのほん』

レズリー・ブルック/文・画 福音館書店 GY-ブ

ぬけ作とよばればかにされているすえのむすこが、ある日森で小人をたすけ、おれいに金のがちょうをもらいます。でも、このがちょうにさわった人は手ははなれなくなります。ほかに、「三びきのくま」など4つのたのしいむかしばなしが入っています。

『イギリスとアイルランドの昔話』

石井桃子/編 福音館書店 GY-イ

「ちいちゃいちいちゃい」は、ちいちゃいちいちゃいむらのちいちゃいちいちゃいいえにすんでいた、ちいちゃいちいちゃいおばあさんのお話。そのほか「三びきの子ブタ」「ジャックとマメの木」「ミアッカどん」など、おもしろいむかしばなしがたくさん入っている本です。

(おうちの人に読んでもらってください)

『こども世界の民話』上・下

内田莉莎子（ほか）/著 実業之日本社 90-コ-1・2

せかいでいちばんとういものをさがしに出かけた3人の王子の話「宝さがし」や、自分の名まえが大きらいなまじよののろいの話「アナンシと五」など、せかいじゅうからあつめた42のお話。（もっとお話が聞きたい人は、おうちの人に『子どもに聞かせる世界の民話』を読んでもらってください）

『はちうえはぼくにまかせて』

ジーン・ジオン/作 ペンギン社 E-グ

夏休みにどこへも行けないトミーは、りょこうする人のはちうえをあずかって、せわをすることにしました。はちうえのしょくぶつは、どんどのびてジャングルのようになってしまう。

『アルプスのきょうだい』

ゼリーナ・ヘンツ/作 岩波書店 GY-へ

スイスの村にすむ男の子ウルスリの大ぼうけん「ウルスリのすず」と、ウルスリの妹フルリーナの夏の山小屋での暮らし「フルリーナと山の鳥」の2つのお話が入っています。

『エミールと小さなイーダ』

アルトリッド・リンドグレン/作 岩波書店 GY-リ

スウェーデンの南の農場に、エミールと妹のイーダがすんでいました。いたずらっこのエミールは、毎日のようにいたずらのぼつとして作業小屋にとじこめられます。小さなイーダは、じぶんもいたずらをしてとじこめてほしいと思います。

『こぎつねコンチ』

中川李枝子/作 のら書店 Y-ナ

こぎつねのコンチは、お父さんとお母さんと、きつねはらっぱのちかくにすんでいます。コンチはお母さんのエプロンみたいに大きなポケットがほしなります。

春・夏・秋・冬のきせつのお話が、ぜんぶで12入っています。

『海べのあさ』

ロバート・マックスキー/作 岩波書店 E-マ

お父さんとボックス・ハーバーへ行く日、とびおきてしたくをしていたサリーは、歯が一本ぐらぐらしているのに気がついてびっくりしました。大きな子になったしるしだとおしえてもらったサリーは、歯がぬけるのをたのしみにします。

『ことばあそびうた』

谷川俊太郎/作 福音館書店 911-タ

「はなのののはな はなのななあに…」うつくしいけしきを思いおこさせてくれる詩など、どの詩も声に出してよむとリズムとひびきがおもしろい、ことばあそびうたのえほんです。

『ポケットのたからもの』

レベッカ・コーディル/作 リブリオ出版 GY-コ

ジェイは6才の男の子です。夕方、ジェイはまきばへでかけ、ウシをつれてかえりま。ジェイはいろいろなものを見つけてはポケットに入れます。木のみやインディアンをやじり、しまもようのマメ。ジェイははじめて小学校に入る日、ポケットにこおろぎ

を入れて行きます。

『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー/作 福音館書店 GY-ウ

お母さんねずみと子ねずみたちは、ある家にこっそりとくらしていました。人に気づかれないようにしずかにしなくてはなりません。ところがいちばん下の子ねずみヤカちゃんの声の大きいこと大きいこと。おかげでたいへんなことがおこります。

『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ウィリアム・スタイグ/作 評論社 E-ス

夏休みのある日、ロバのシルベスターは、きみょうな小石を見つけました。その小石をもっていると、なんでものぞみがかなうようです。みんなにもすきなことをさせてやろうと家へ帰ろうとしたそのとき、ライオンがやってきました。おどろいたシルベスターは思わず、あるねがいごとをしてしまいます。

『すえっ^{オー}この0ちゃん』

エディス＝ウンネルスタッド/作 フェリシモ GY-ウ

7人兄弟のすえっこの0ちゃんは、5才の女の子です。ある日やねうらべやで、古いうばぐるまをみつけた0ちゃんは、ねこのクロをむりやりのせてさんぽに行きます。ところが犬がとびかかってきて、うばぐるまはさか道をころがって行ってしまいます。

『くしゃみくしゃみ天のめぐみ』

松岡享子/作 福音館書店 Y-マ

むかし、「はくしょん」というなまえの若者がいました。なまえでからかわれてばかりいましたが、大きな村の長者のむすめをくしゃみでわらわせ元気にし、そのむこにむかえられました。ほかにも、「いびき」や「しゃっくり」などのゆかいなおはなしが入っています。